

第2章 授業評価

第3節 授業に関する学生・教員交流会

1. 企画趣旨

授業に関する学生・教員交流会（以下、交流会）は、授業アンケートでは拾いきれない学生の直接的な声を聞くことを目的として、年に1回開催されている。H25年度～H28年度は、授業アンケートに関する話題（分量、質問項目、実施時期、実施方法など）が中心であったが、H29年度からは、授業全般について話題が広がっている。

表1 授業に関する学生・教員交流会のテーマ（H25年度～H30年度）

開催年度	テーマ
H25年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
H26年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
H27年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
H28年度	授業アンケートをもとにした授業改善について／授業アンケートに関する教員コメントの内容について／その他
H29年度	時間割の要望について／授業の進行方法について／授業改善の要望について／授業・講義に関することでその他
H30年度	授業レベルについて／到達目標について／授業外学修について／授業・講義に関することでその他

今年度の実施にあたり、まずは、企画を担当する委員で、交流会の現状と課題、理想の展開について話し合った。挙げた意見は以下のようなものである。

- ・交流会は年に1度の開催であるため、交流会で挙げた意見や改善点について、同じメンバーで改めて検討し、実践する場がない。
- ・交流会で挙げた意見や改善点が、今後の授業でどのように反映されたのか（あるいは今後反映されるのか）学生に対してフィードバックがない。
- ・全学の学生に対して、交流会の実施や意義について周知が十分でない。

そこで、今年度は、授業や学習環境の改善に、継続的かつ積極的に関わる学生の発掘も視野にいれ、メインテーマを「学生の 学生による 学生のための学生FDを考えよう！」と設定した。このメインテーマのもと展開されたトークテーマは次の3つである。

トークテーマ1 学生FDの企画内容

トークテーマ2 学生FDの体制づくり

トークテーマ3 学生によるカリキュラム開発

学生FDは、教育の当事者である学生と教職員が協働しながら、教育環境ならびに授業内容を、改善・向上させていく取り組みである。既にいくつかの大学で導入され、成果が報告されている。学生FDの一例としては、学生主催の「FDカフェ」の実施、おすすめ授業の紹介、学生によるシラバスの読み説き方、上級生による「学び方講座」の実施（ポートフォリオの活用、学びのロールモデルの紹介、学内施設の活用方法）、学生発案の授業の実施、などがある。

2. 実施概要

■学生募集

期間：2019年12月4日～12月17日

募集方法：メール告知とFD委員による声かけ（各学科2,3人選出）

■事前アンケート

期間：2020年1月4日～1月8日

アンケート方法：グーグルフォームにて提出

(1) アンケート項目

トークテーマ① 学生FDの企画内容

学生FDを組織することを計画しています。学生FDでどのような企画をしたら有意義でしょうか。皆さんの日々の授業や学習環境をより充実させるアイデアを考えてください。

トークテーマ② 学生FDの体制づくり

学生FDを魅力的で持続可能な組織とするためには、どのようなことが必要でしょうか。あわせて、大学や教職員にどのようなサポートを期待しますか。

トークテーマ③ 学生によるカリキュラム開発

2020年度から本学は新しい学部・学科体制がスタートします。新年度からの共通教育では、他学科の学生と共に学ぶゼミが開講されます。どのようなゼミなら有意義でしょうか。「こんなゼミがあったらいいな」という内容を考えてみてください。

(2) 事前アンケートの結果

実施時期が短期間であったのにも関わらず、積極的に意欲的な意見を得ることができた。そもそも自薦であれ、他薦であれ、交流会に参加するという時点で、参加学生は、授業改善や学習環境について何らかの意見を持っていると推察できる。

事前アンケートの段階では、ほぼすべての学生において「学生FD」の認識はなかった。ただ、交流会に至るまでに、他大学の取り組みを調べたりこれまでの学びをふり返ったりと、学びの当事者としての意識を高めることができたようだった。また、所属学科の異なる学生がグループとなり、授業や学習環境の改善を検討するという交流会の趣旨を捉え、全学的な視点で新しい学びを提案するものがみられた。例えば、各学科の良さを活かした学生交流の場の創設や、専門的な学びの基礎となるアカデミックスキルの学習会の実施・運営、などである。

日々の授業において、学生が「授業を創る」あるいは「学習環境改善に関わる」という意識はなかなか生まれない。それは学生・教員ともにそうである。授業や学習環境の改善に学生が関わることで、新しい学びのスタイルが確立するのではないか、そんなことを期待させる事前アンケートの結果であった。

■当日の記録

【日 時】2020年1月9日（木）5限 16：20～17：50

【場 所】7号館4階 742アクティブラーニング教室

【参加者】35人（学生25人 教員10人）

【テーマ】学生の 学生による 学生のための学生FDを考えよう！

(1) プログラム

1. 開会あいさつ、交流会の説明（10分）
2. グループミーティング（自己紹介を含む）（35分）
3. グループ発表（各5分×5グループ）（25分）
4. アンケート記入（10分）
5. まとめ（10分）

(2) グループミーティングの進め方・グループ発表の方法

当日は5つのグループに分かれミーティングを行った。1グループは2学科の学生・教員で構成され、学生

は5名、教員は2名である。なお、トークテーマ③「学生によるカリキュラム開発」の参考情報として、2020年度からの本学のカリキュラム体制、グループミーティングの手順を資料で示した。以下、資料の一部を転載する。

参考1

2020年度生から共通科目で以下のゼミナールを選択履修することができます。

2年次・3年次配当（前・後 2単位）…「課題解決ゼミナール」（繰り返し受講可能）

3年次・4年次配当（前・後 2単位）…「総合ゼミナール」（繰り返し受講可能）

参考2

2020年度からのカリキュラムにおいて、本学は以下のようなカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）を立てています。

社会・地域および学生の多様なニーズに応えるために編成した3学部9学科体制を生かし、共通科および他学科開放科目において、学部学科を超えた学生同士の学び合いの活性化を目指す。

（中略）共通科目および他学科開放科目の履修により、多様な学問領域に触れ、専門性の裾野を広げるとともに、幅広い視野を身に付け、学際的な知識と柔軟な思考力を養う。

参考3

■グループミーティングの方法

（1）ブレインストーミングの形式で、自由に話し合いをしてみましょう

【ブレインストーミングの4つのルール】

批判をしないでよいところを見つけましょう

自由に意見を出しましょう（突飛なアイデアを歓迎しましょう）

質より量でたくさんのアイデアを出しましょう

他の人のアイデアに便乗しましょう

（2）アイデアをふせんに書きだしましょう

1つのアイデアを1つのふせんに書きます

近しいアイデアをグルーピングし、模造紙の上に整理していきます

色マジック等を使って、模造紙にタイトルや項目を書いていきましょう

（3）「スカウトカード」を活用しましょう

トークテーマ3では、学科を超えた「ゼミ」の可能性について話し合います。

今回は、2学科で話し合いをしています。他の学科の学生にアイデアを聞きたい場合があるかもしれませんが、その時は「スカウトカード」を使いましょう。

「スカウトカード」の使い方

① 「スカウトカード」を持って、教えてほしいメンバーがいるテーブルに行きます

② どんな内容を教えてほしいか説明し、1名、自分たちのテーブルに来てもらいます

③ 代わりにスカウトをしにきた人が、1名抜けた席に入り、話し合いに参加します

④ アイデアをもらうのは3分ほどにしましょう

⑤ アイデアをもらったら、相互にあいさつをし、元の席に戻ります

グループ発表にあたっては、ミーティングの際に活用した模造紙や付箋を見せながら、発表する形式をとった。また、発表に不慣れなグループの手がかりになるよう、発表の手順を示した。

参考4

■発表の方法

グループ全員で、模造紙を見せながら発表します（全体で5分）

（机の隣のホワイトボードに模造紙を貼り、プレゼンテーションをしましょう）

発表の型（型の一連です。発表の際の参考にしてみてください）

1	グループの紹介	☆☆グループです。私たちは〇〇学科と△△学科のチームです。
2	内容予告1	まず、トークテーマ1「学生FDの企画」について発表します。
3	結果の概要1	学生FDの企画として、2つ考えてみました。「★★をする」と「■■をする」です。
4	結果の詳細1	1つ目の「★★をする」についてです。具体的には～のようなことをします。2つめの「■■をする」についてです。例えば、～のようなことが考えられます。
5	内容予告2	続いて、トークテーマ2「学生FDの体制」について発表します。
以下、略		
6	まとめ	以上で、☆☆グループの発表を終わります。

(3) グループミーティングの結果

各グループのミーティング結果をトークテーマ毎に整理して紹介する。

トークテーマ① 学生FDの企画内容

- ・授業アンケートを期末ではなく途中に行い、改善につなげる
- ・論文検索（CiNii）やレポートの書き方など、学生相互に学べる機会を企画する
- ・学生FDメンバーが推薦する「ベスト授業賞」を発表する
- ・オリエンテーションや入門ゼミナール等の時間を使って、学生FDの活動を報告する
- ・学生FDの取り組みを知らない学生に向けてイベントを開く

【話し合いの結果から考えられること】

「授業アンケートを期末ではなく途中に行い、改善につなげる」という指摘は、以前も「学生との交流会」で聞かれたものである。この指摘の背景には「期末の授業アンケートに改善してほしいことを書いても、実際改善された授業を自分たちは受けられない」という学生の不満がある。

日々の授業の中で、学生の声を受け止め、それを授業に活かしていくことは、既に多くの教員が実施していることである。ただ、教員の工夫や改善を学生が認識しているかはわからない。

「授業アンケート」という形でなくても、学生と一緒に授業のあり方について考えていく時間を作ってもよいだろう。リアクションペーパーを読み上げ「これは改善できる」「これは〇〇という理由により難しい」など、共に学びを創るといった雰囲気を大切にしたい。

また、企画内容としては、学科を超えて求められるスキルの修得や、FD活動の発信などが挙げられた。

トークテーマ② 学生FDの体制づくり

- ・複数の学科からメンバーを選出し、月1回のミーティングを行う
- ・単発の会ではなく、定期的に教員と学生が話せる場を設ける
- ・責任をもってFDに取り組めるよう、大学が正式に任命する（任命式の開催）
- ・FD研修を実施する（他大学への視察）
- ・学生FDのTwitter、インスタグラムアカウントを作成し、学びの当事者としての意識を高める

【話し合いの結果から考えられること】

部活動でもないサークルでもない、そうしたFD活動を推進していくには、学生が負担と感じない程度で活動を継続していくことが肝要となる。あわせて、学生の自己肯定感や責任感を高めるため、提案にあるように任命制度をとるのも効果的であろう。学外に大学の代表として研修に行くことも、学生の成長と自覚を促す。

教員と職員が協力し、学生の活動をサポートできるような仕組みを検討したい。

トークテーマ③ 学生によるカリキュラム開発

- ・学科を超えてゼミに参加（交換ゼミ生の制度）
- ・アウトプットを意識した授業
- ・インプット（前期）とアウトプット（後期）が連続しているカリキュラム
- ・おしゃれな企業とコラボした授業
- ・各学科の持ち味を活かして、共通の課題を解決する授業

【話し合いの結果から考えられること】

2020年度からの新体制に合わせて設定したトークテーマである。グループ発表では、各学科の持ち味を活かした具体的なゼミを紹介するグループもあった。ただ、教員が思っている以上に、学生たちは所属学科以外のことを知らない。「スカウトカード」を準備したのは、そうした状況を想定してのことだったが、「スカウトカード」の活用に至らないほど、他学科の学びについて、理解が乏しいことがわかった。

全体的に、アウトプットを意識した学習内容や、社会や企業とつながる学びを、学生たちが望んでいることを確認することができた。共通科目で設定している「課題解決ゼミナール」や「総合ゼミナール」では専門課程の学びと異なる学びの相互交流を期待したい。

■事後アンケート

ここでは、学生アンケートの結果と教員アンケートの結果を一部紹介する。

（１） 学生アンケートの結果

25人中24人が「参加してよかった」と回答した（1名無回答）。また、学びの当事者として意見を伝えられたか、という項目は、25人中14人が「伝えられた」、10人が「まあまあ伝えられた」と回答した。

以下、自由記述による学生の感想を掲載する。

幼児教育学科（グループA）

- ・他学科の学生も含め、大学に対する生の声を聞けて、改善できる点がたくさんあると感じました。今回はたまたま私達でしたが、今回参加していない学生でも「〇〇してほしい」という意見があると思うので、今後も他のメンバーでも実施することが必要だと思います。私自身、他学科の学生との交流は少なかったもので、様々な意見を聞き、交流ができてよかったです。
- ・他学科との交流や先生方との交流は新鮮で、様々な視点からの意見は面白かったです。同じ意見をもっている人や共感できる意見もあり、これらが実現して、よりよい大学生活へとつながってほしいと思いました。短い時間でしたが、時間が足りなくなる程、話が盛り上がっていたので、他の学生にも参加してもっと意見が集まると面白いと思いました。
- ・初めてこういう場に参加して、少し身構えていたけれど、他学科の学生さんと先生方とこんなディスカッションができるのはとても貴重でした。有意義な時間を過ごすことができて自信にもつながりました。自分たちの環境をよりよくするために自分たちで動く、というのは、積極的な学びにつながり、大学が好きになると思いました。今日挙げたアイデアをすべて実行するのは難しいと思うけれど、少しでも実現されることを願っています。

人間発達心理学科（グループA）

- ・他学科との意見交換の場を、今回久々に体験し、楽しく取り組むことが出来ました。スカウトカードの活用は、トークテーマに対しどのように使うべきかが具体的に思いつけなかったもので、学科の特徴についてのリストなどをレジュメに入れておいてくれると良いかもしれません。本日はありがとうございました。
- ・大学へ対する自分の考え等を他の学科の学生と共有できたり、一部でも先生方に伝えられたりしたのが良かったです。また定期的にこのFD交流会を開いてほしいです。今日話し合った内容を学内メールか何かで、全学生に伝えてもらえるとうり良いと思います。

児童教育学科（グループB）

- ・学生FDということで、初めて聞いたし、よく分からなかったけど、事前にメールで当日話し合うトークテーマを予告してくれたり、アンケートを取ってくれたりしたので準備がしやすかった。良かったと思う。今日、学生から出た声、意見をふまえて、今後改善していったら良いと思っている。
- ・他学科の人と話し合える機会は、あまりないので新鮮でした。しかし、90分の間には、なかなか緊張がほぐれなかったし、話し合う時間もギリギリだったので、2、3回連続して話し合えたら、さらに話し合いが活発になると思いました。

メディアコミュニケーション学科（グループB）

- ・今回参加してみて、テーマ内容だけでなく他学科の情報も聞くことができ、とても楽しかったです。違う学びをしている人たちが同じことについて話し合い発表していくことはとっても大切で記憶に残るものになりました。
- ・今回、初めて参加してみて他学科の意見を聞くことができとても良い機会になった。
- ・普段自分達の受けている授業について、深く考えたり改善を考えたりすることはほとんどなく、さらに、大学の発展に直接つながるような経験をしたことがなかったので、今回参加することができてよかったです。時間が足りなかったのが少々問題点であると感じました。

人間福祉学科（グループC）

- ・学校に対する意見を言うことができる場だと感じました。自分1人では意見が出てこないようなおもしろいアイデアが出てきて楽しかったです。FDについて何もわからずに参加してしまいました。もっとFDについての説明会やメール等があってもよいのではないかと感じました。
- ・各学科で違う考え方、捉え方があったので、今後もこのような機会があると新しい考えの発見になって良いと思いました。ただ、今回のような話し合いだと、もう少し時間がある方が、もっと活発な意見が出たり、意見がまとまったりするのではないかと感じました。
- ・他学科の人がこういうことを考えているのだということを知る良い機会になりました。今後も行っていくことで、学習環境が徐々に改善され、質の高い学習を受けられる大学になると思います。また、学生FDというものへの理解も深まる良いきっかけになりました。同学科の人がグループにいたのでとても話しやすかったです。

留学生（グループC）

- ・FDに関しては、もともと知らなかったが、今回の交流会を通じて日本人の学生の意見を聞くことができた。学校の足りない部分をどうやって改善するか、その方法も言っていて参考になった。これから本格的に実現するととても良いと思った。
- ・本日の交流会に参加してよかったですと思っています。いろいろな意見を聞き面白いと思いました。授業や教育環境を改善するために、こんな交流会があったらすごくいいと思います。

健康栄養学科（グループD）

- ・FDの活動にとっても興味をもてたとても良い機会でした。もっとこの活動に参加したいと思いました。他学科とのグループワークは初めてで、違った視点からの意見がたくさん出たのでとても刺激的でした。よりよい大学、学科にするためにも、このような機会が増えたらうれしいです。
- ・学校生活において改善したいと思うところを伝えられて良かったです。今日出た意見が改善され、更により良い学校生活を送ることができるよう今後もこの活動を大切にしていってほしいです。

文芸文化学科（グループD）

- ・良い授業にしてほしいなど思っているだけで終わってしまっていたので、こういう機会があるのはすごく良いなと思いました。また、良い授業にしてほしいという視点から、良い授業にするためにどうしたら良いかという視点を持てたので、良い機会だったなと思います。他学科と意見交換ができたのはすごく良かったけど、自己紹介も含めてもう少し話し合いの時間があつたらいいなと思いました。
- ・前もってテーマについてちゃんと考えておけばよかったと思いました。スカウトが使えると前もって知っていたら、意見が変わると思うので、知りたかったです。
- ・今回初めてFDという活動を知りました。学校がより良いものになり、自分の成長にもつながるので、もっと大々的にFDの活動をしてゆけたらいいなと思いました。

食物栄養学科（グループE）

- ・他学科の学生と学年を超えて交流をすることで、学校や授業に対して感じていることなどが、同じだったり、逆に、自分では思ってもみなかった考えなどが知れたり、とても充実した時間をすごせました。今後はもっとこういった学科、学年をこえた交流が出来る場が増えたらいいなと思いました。
- ・最初は何をやるのかとても不安だったが、色んな意見がでて話し合うことで、よりよい学生生活を作っているという実感がわいた。自分たちの意見があまり共有されるという機会がないのでとても有意義な時間になった。
- ・今回参加して、はじめは少し面倒だと思っていたのですが、意見を交換しあつて自分の意見も言うことができ、これが今後学校で採用されるかもしれないと思ったらとても楽しかったです。次回ももし参加できるなら参加したいと思いました。

生活情報学科（グループE）

- ・もっと話し合いをしたかったので時間を延ばして欲しいです（みんなの都合があるから不可能かもしれませんが）。1年生から意見を引き出すのが難しかったです。事前アンケートに答えていたので、ミーティングの時にスラスラ出てきてスムーズに意見交換ができました。他学科の人と大学に対する意識を共有できて、他学科の感覚を感じられたことが嬉しかったです。とても楽しかったし、また集まりたいし、本当に改善していきたいと思えました。
- ・学生FDについて議論して、各班の発表を聞いて、そういう制度があつたらよいと思うし、やりたいと乗り気になりました。様々な事情で難しいこともあるかもしれないけれど、学生FDの制度の実施を前向きに大学側にも検討してもらいたいです。

（2） 教員アンケートの結果

続いて、教員対象アンケートで得られた意見を掲載する。教員対象アンケートでは【次回開催に向けてのアイデア】と【意見・感想・改善点】の2点を尋ねた。

【次回開催に向けてのアイデア】

- ・（交流会は）実施した方がよいが、（学生が授業改善の結果がどのように反映されたのか分からないのと同じように）この話し合いの内容がどこかできちんと発信されて、それを受け継ぐ形で次の会がうまくつながる、発展するようになるとよいと思います。
- ・今回も意見として出ましたが、どのような授業を望んでいるのか、内容、方法、評価に関して聞いてみたい。共有する方法はなかなか難しいと思いますが、掲示、報告会のようなものを授業の一部にとり入れられる道も探れないかと思いました。学生のオープンキャンパスでブースをとるというアイデアもおもしろいですが、オリエンテーションで紹介の時間をもつなども考えられるかと。
- ・Google form等で広く意見をとる方が、生々しい不満が出るように思いました。あるいは、ピアスタッフという意味で、より責任をもって、FDをしてもらうのがよいと思います。
- ・今回各グループから出たアイデアの中で、共通のアイデアかつ現実化できそうなものについて、より具体的に話し合いを深めるなど。

- ・大規模での開催があるとよいと思いました。100名規模～など。テーマでしぼりこんで「実現するインセンティブ」を付与すると良いと思いました。
- ・今回みたいな感じの開催がよいと思った。パーティー形式で会食しながらやれるとよい。
- ・発表形式や意見交流のあり方については、もっと違う方法もあるか。また、今後考えたいテーマとして、授業アンケートの内容や教員へ意見を伝える方法の検討などがある。
- ・学生FDとして取り上げたい企画を、より具体的に立案する機会があれば良いと思いました。今回の成果を形にすることが大切だと思います。
- ・今日集まったような、前向き発信のできる学生だけでなく、「声なき声」を知る機会を作ることができないでしょうか…。

【意見・感想・改善点】

- ・ぜひ、今回の参加メンバーの中から学生FD委員会を立ち上げてくれる学生が出てくれると大変嬉しいです。願っています！素晴らしい意見が（実現可能な意見が）沢山聞けました！！ありがとうございました。
- ・授業評価アンケートのことなど学生の認識と自身の認識が違うのに驚きましたし、学生が色々とアイデアをもって話すのを聞きなるほどと思うことも沢山ありました。ふだんゼミの時間内などに学生がこぼす不満とも違って、改善の可能性の高い意見をきけました。
- ・毎年開催しているが、具体的な改善にはなかなかつながらないのが残念。
- ・今回はトークテーマ①②③の設定もよかった為、これまでにない新鮮なアイデアの発案があり、充実していたと思います。
- ・今日挙げたアイデアのうちいくつかは実現可能だと思われた。
- ・学生の自発的な参加を促すためには、告知の時期や方法に工夫が必要だと思われます。難しいかもしれませんが、学生からはもっと本音を聞きたいものです。
- ・今回のような企画であれば、もっと時間が必要だと思います。あふれるように出された意見が、もったいない程でした。それこそ成果物として、作り上げられる企画につなげていきたいものです。

■当日の様子



3. まとめ

意欲的かつ積極的な学生が集まったことで、概ね目的・ねらいに沿った内容で交流会を実施することができた。今後は、交流会で挙げた意見を全学で共有し、大学に関わるすべての構成員が「学びの当事者」の意識を持つような仕掛けを作っていくことが大切になる。また、年に一度の意見交換会ではなく、企画を立案・実施し、改善を図れるような会も催していきたい。

実は交流会が実施された翌月、「学生FDサミット2020春in広島経済大学」に学生数名と参加する企画を立てていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴いイベントは中止となった。また、今回の参加者を核にした学生FD立ち上げの企画も始動できていない。交流会で使用した模造紙を展示するという企画も延期である。

ただ、遠隔授業に新しい学びの可能性を感じている今、学生と共に新しい学びを創っていくことは可能だ。状況を悲観することなく、本学らしい学びのあり方を探っていけたらと願う。まずは教員同士が、授業のノウハウを共有したり、授業を相互に見学しあったりし、指導のスキルを高めていくことから始めてみたらどうだろうか。